

業務核都市の自然及び都市景観に関する市民評価

—埼玉県春日部市を事例として—

Evaluation of residential environment in suburban core cities in Tokyo metropolis:
A case of Kasukabe city, Saitama prefecture

中 村 哲 也・丸 山 敦 史 (千葉大学大学院)
Tetsuya NAKAMURA・Atsushi MARUYAMA

概要

本稿では、業務核都市春日部市の自然及び都市景観に関する市民評価を考察してきた。その結果、市民は春日部市を農がある自然に恵まれたまちという景観イメージを持ちながら、公園や緑地が少なく、自然に恵まれていないという印象を持っていた。春日部市の自然及び都市景観については、緑に関する満足度は比較的に高いが、水辺空間に関する満足度は低かった。そして、順序ロジットを推計した結果、自然及び都市景観については、二世帯世帯の満足度はやや高いものの、都市住民や、専業主婦は不満を抱えていた。

キーワード：業務核都市、農村景観、都市景観、春日部市

Abstract

The study examines residential assessment on the environment of suburban core cities, some of which have recently faced a population outflow and renew their urban planning actions. Data was collected at Kasukabe city of Saitama prefecture in Tokyo metropolitan area. Our results showed that Kasukabe residents highly evaluated its agricultural landscape while they considered that the number of urban parks or green spaces for the public was not good enough. Especially, waterfront or riverside environment is poorly evaluated. Residents in urbanized area of the city or those engaged in full-time housework, moreover, tend to have much dissatisfaction at their residential environment.

Keywords: core business city, agricultural conservation, landscaping, Kasukabe city

目次

- 1 課題
- 2 調査概要
 - 2.1 サンプル属性
 - 2.2 市民がイメージする業務核都市春日部の景観
 - 2.3 春日部市民のすまい・住環境
 - 2.4 春日部市における自然及び都市景観の満足度
- 3 春日部市民の自然及び都市景観に関する分析
 - 3.1 春日部市の景観イメージ、景観への期待、住みたい理由に関する推計結果
 - 3.2 個人属性別自然・都市景観の満足度の推計結果
- 4 結論

1 課題

わが国では、東京圏への一極依存構造に起因する住宅問題や職住遠隔化等の大都市問題の解決を図るため、「業務核都市」が整備された^{注1)}。第4次首都圏基本計画では横浜市、川崎市、八王子市、千葉市等が業務核都市として指定され、第5次首都圏基本計画では多摩地区、町田市、相模原市、柏市等が指定された。埼玉県内では、さいたま市、熊谷市・深谷市、春日部・越谷市、川越市の4地域が、業務核都市として位置づけられている。業務核都市の整備を進めることにより、諸機能が充実した自立性の高い地域を形成することが可能になる。埼玉県の基本構想を見ると、さいたま市では、彩の国の気候風土を美しく演出する「けやきひろば」を、熊谷市・深谷市では、武蔵丘陵森林公園や河川敷を活用したレクリエーション施設等を、春日部・越谷市では、古利根川、元荒川等を始めとした河川や用水等の身近な水とみどりを活かした整備を推進し、業務・商業機能等の都市機能の充実を図っている^{注2)}。1970年～2010年の40年間で人口が倍増した都道府県は、埼玉県のほかにはない^{注3)}。にもかかわらず、埼玉県民は『埼玉都民』と揶揄されるほど、郷土愛が薄い^{注4)}。業務核都市のうちで、2005年～2010年の間に人口増減率がマイナスに転じているのは、青梅市(-2.2%)、深谷市(-1.4%)、熊谷市(-0.7%)、春日部市(-0.6%)、土浦市(-0.2%)の5都市である(国勢調査2010年)^{注5)}が、このうち埼玉県が3都市を占めている。

この3都市の中で、最も都心から近いのが春日部市である。高度経済成長以来、東京のベッドタウンとして発展してきた。しかし、ここ数年は「都心回帰」現象により、転出超過数が自然増加数で賄い切れずに、人口が減少に転じている。元々は自然の豊かな農村であり、その後、自然と市街地が併存する形で発達した春日部市のような都市は、東京圏

には少なくない。

農村景観に関する先行研究として、藤本（1998）は水田転作作物が大和高田市等の周辺住民に齎す便益を推計し、都市化した地区の便益は高いが都市化しない地区の便益は低いことを、同様に吉田等（1996）は美瑛町の景観作物が齎す便益は観光客より住民の方が大きいことを明らかにした。また吉田等（1997）は、能勢町の農村景観が周辺住民に齎す便益を推計し、同町に近いほど便益が高く、観光地化されていない稲作主体の一般的な農村景観であっても高額なことを明らかにした。これらの先行研究は、農村景観が齎す便益を二項選択 CVM を用いて推計した点で優れているが、多様な個人属性をもつ市民が農村景観に対して、どのような印象を持つのか、その個人差を推計する方法ではない。また東京圏に点在する業務核都市が抱える農村及び都市景観を事例とした先行研究は見当たらない。

そこで本稿では、業務核都市である春日部市を事例とし、自然景観と都市景観が共生可能なまちづくりにどのような視点が必要かを検討する。具体的には、市民がイメージする景観や、期待するまちづくりについて考察し、市民が自然景観に満足しているのか、また満足度と市民属性との関係を統計的に分析する。

2 調査概要

2.1 サンプル属性

本研究において使用するデータベースは、春日部市が実施した『市民アンケート』（調

表 2.1.1 サンプル属性

属性		度数	割合	属性		度数	割合	
性	男性	498	80.1%	地区	粕壁	149	24.0%	
	女性	124	19.9%		幸松	43	6.9%	
職業	農林漁業	8	1.3%		武里	153	24.6%	
	自営業	51	8.2%		内牧	30	4.8%	
	勤労者(常勤)	301	48.4%		豊春	117	18.8%	
	勤労者(非常勤)	52	8.4%		豊野	41	6.6%	
	学生	0	0.0%		南桜井	55	8.8%	
	専業主婦・主夫	44	7.1%		庄和北	12	1.9%	
	無職	152	24.4%		庄和中央	8	1.3%	
	その他	14	2.3%		庄和南	14	2.3%	
年齢	20歳代	13	2.1%		世帯	粕壁+武里	302	48.6%
	30歳代	84	13.5%			一人世帯	87	14.0%
	40歳代	112	18.0%			夫婦のみ世帯	170	27.3%
	50歳代	113	18.2%			二世帯世帯	298	47.9%
	60歳代	204	32.8%	三世帯世帯		51	8.2%	
	70歳代以上	96	15.4%	その他		16	2.6%	
	属性		平均	SD		属性		平均
年齢（歳）		56.2	13.6	家族人数（人）		3.042	1.37	

出所：春日部市が実施した『景観に関するアンケート』より作成

註：1) 『勤労者』とは、会社員、公務員、役員、団体職員を示す。

註：2) 『二世帯世帯』とは親と子、『三世帯世帯』とは親と子と孫の世帯を示す。

註：3) 年齢と年収については階級値を求め、平均値とSD（標準偏差）を推計した。

査期間：2010年1月～2月)の931名分のデータを用い、ロジット分析が推計可能な622名分を抽出し、分析に用いた。

表2.1.1は、サンプル属性を示した。まず、性別は男性が80.1%、職業は勤労者(常勤)が48.4%、無職が24.4%を占めている。平均年齢は56.2歳であり、年齢階層は60歳代が32.8%と最も多く、国勢調査の年齢別人口分布にほぼ一致する。地区は住宅地の多い武里(24.6%)と行政機関が集中する粕壁(24.0%)で半数(48.6%)を占める。以下の分析では、必要に応じて、この2地区(武里・粕壁)を都市部、他の地区を農村部として扱う。家族人数は3.04人であり、二世帯世帯(47.9%)が半数を占めた。

表2.2.1 春日部市の景観・住居イメージ、景観への期待、住み続けたい理由

評価項目		度数	割合
景観のイメージ	便利なまち	294	47.3%
	農のある長閑なまち	278	44.7%
	自然に恵まれたまち	241	38.7%
	生活感のあるまち	234	37.6%
	交通網が整った便利な街	142	22.8%
景観に対する期待	財産といえる場所を守る	233	37.5%
	景観資源を保全する	222	35.7%
	緑や花を増やす	217	34.9%
	建物や開発行為の景観に関する規制・誘導の強化	154	24.8%
	公共施設・空間を親しみ	142	22.8%
住環境にあてはまる理由	天災被害が心配	136	21.9%
	空き巣等の被害が心配	121	19.5%
	医療・福祉施設が遠い	95	15.3%
	公園や緑地が少ない	92	14.8%
	密集住宅地	88	14.1%
住み続けたい理由	子供の教育に適す	24	3.9%
	仕事や商売の都合	26	4.2%
	災害の心配がない	28	4.5%
	老後の生活に安心感	36	5.8%
	自然にめぐまれている	63	10.1%

注：景観のイメージ、住み続けたい理由、住環境としてあてはまる項目については上位5項目を、住み続けたい理由のみ下位5項目を示す。

2.2 市民がイメージする業務核都市春日部の景観

本節では、春日部市民がイメージする春日部市を検討する(表2.2.1)。まず『春日部市の景観イメージ』としては最も多い項目が「便利なまち」(47.3%)であるが、次いでイメージするのは「農のあるのどかなまち」(44.7%)である。同様に「自然に恵まれたまち」(38.7%)とのイメージも多い。市民は利便性の高いまちとしてのイメージを有しながら、農業や自然に囲まれたまちというイメージも持っていた。なお、図表は省略するが、春日部らしい田や畑の広がる田園風景を連想する地域を記入してもらえると、市民は内牧地区(9.7%)や庄和地区(7.2%)を挙げ、まとまった緑がある場所としては内牧地区(12.2%)や内牧公園(9.2%)、庄和総合公園(2.4%)を上位に挙げた。更に、『景観づくりに期待すること』としては、「春日部市の財産といえる場所を守る」(37.5%)ことが第一であるが、「景観資源(歴史的建造物や樹木等)を保全する」(35.7%)や「緑や花を増やす」(34.9%)ことに期待する市民も多い。

2.3 春日部市民のすまい・住環境

ここでは、春日部市民のすまいや住環境についての評価を考察する。まず、市民が居住

する『すまいや住環境としてあてはまる項目』として、市民は「天災被害が心配」(21.9%)、『空き巣・ひったくり被害が心配』(19.5%)、『医療・福祉施設が遠い』(15.3%)等の項目を上位に挙げる中で、「公園や緑地が少ない」(14.8%)という項目を第4位に挙げた。

次に、春日部市に『住み続けたい理由』として、評価が低かった理由を5つ挙げてみると(調査項目は全部で12項目)、「子育てや子供の教育に適している」(3.9%)、「仕事や商売の都合」(4.2%)、「災害の心配がない」(4.5%)、「老後の生活に安心感がある」(5.8%)、「自然に恵まれている」(10.1%)という順番になった。即ち、住み続ける理由として子育てのしやすさや災害の少なさ、老後の安定性を挙げる市民は少ないことが分かった。

2.4 春日部市における自然及び都市景観の満足度

次に、自然及び都市景観に関する15の評価項目を用いて、春日部市の景観満足度について考察する(表2.4.1)。満足度は5段階(満足5点～不満1点)で評価した。

まず「水辺のネットワークの整備」(平均値2.43)、「水辺空間の整備」(2.50)、「河川や水辺の景観」(2.54)等の水辺に関する項目や、「塀や生垣の美しさ」(2.51)、「住宅地における生垣づくりの推進」(2.53)等の生け垣に関する項目の満足度が低いことが分かる。春日部らしい川を連想してもらえると、市民は古利根川(34.7%)や江戸川(8.5%)を、春日部らしい道や坂を連想してもらえると「藤通り」(5.7%)を挙げる(表省略)。地勢的に春日部市東部や旧庄和町は、低地と河川が多くあり、埼玉県東部地区で一大米穀の生産地であったことや、市の花がフジであることもあって、藤通りにはフジの生け垣も整備されているが、市民の満足感は得られていない。

図2.4.1は、評価項目と満足度の関係について相関分析を用いて図示した結果である。「水辺空間の整備」や「水辺のネットワークの整備」、「河川や水辺の景観」等

表2.4.1 春日部市における自然及び都市景観の満足度

	平均	SD	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
水辺のネットワークの整備	2.43	0.88	1.4%	6.9%	40.2%	36.2%	15.3%
水辺空間の整備	2.50	0.86	1.3%	6.9%	46.1%	32.2%	13.5%
塀や生垣の美しさ	2.51	0.76	0.5%	5.0%	49.5%	34.9%	10.1%
住宅地における生垣づくりの推進	2.53	0.77	1.4%	3.4%	51.3%	34.2%	9.6%
河川や水辺の景観	2.54	0.93	1.4%	12.2%	39.4%	32.5%	14.5%
憩いの場としての農地の保全	2.55	0.81	1.1%	5.9%	50.6%	31.2%	11.1%
みどりと共存した住宅地整備	2.63	0.79	1.0%	8.4%	52.1%	30.1%	8.5%
工場等における敷地内の緑化の推進	2.61	0.74	1.0%	4.3%	57.2%	29.4%	8.0%
公共施設等における緑化や広場整備	2.63	0.79	1.3%	6.8%	54.0%	29.1%	8.8%
緑地空間としての農地保全	2.74	0.76	1.4%	9.2%	57.6%	26.0%	5.8%
花・花木の多さや美しさ	2.75	0.89	2.3%	15.4%	45.2%	28.9%	8.2%
富士山・江戸川などの遠景の眺め	2.86	0.94	3.9%	16.7%	49.7%	20.6%	9.2%
季節の景観	2.89	0.81	2.9%	13.7%	58.4%	19.5%	5.6%
環境共生	2.89	0.93	5.1%	16.1%	48.7%	22.8%	7.2%
緑の多さ	2.91	0.95	4.2%	19.8%	47.1%	20.6%	8.4%

註：満足度は5段階で評価しており、左2列は平均値とSD(標準偏差)を、右5列は各割合を示す。

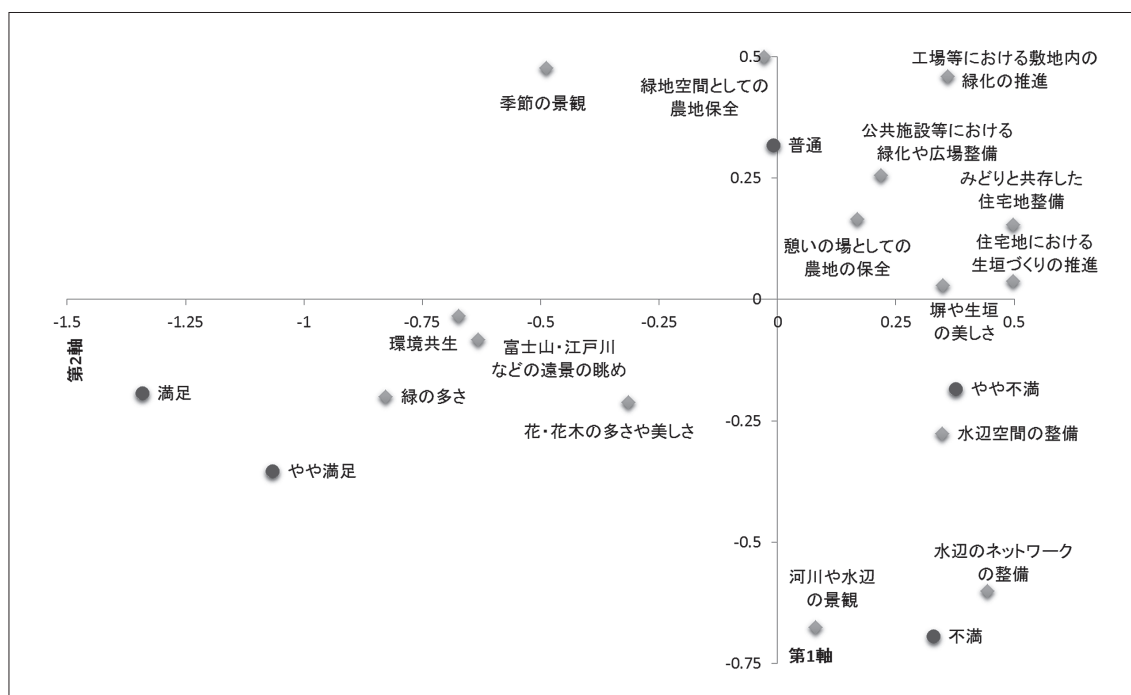


図 2.4.1 春日部市における自然及び都市景観に関する満足度（コレスポンデンス分析結果：度数）

の評価項目は第 4 象限に位置し、「やや不満」「不満」と関連している。春日部市を流れる利根川水系では、河床勾配が緩く、蛇行する川も多数流れ、洪水が起きやすい。そのため春日部市には世界最大級の首都圏外郭放水路が建設されている。水辺空間の不満に関しては、春日部市の基本構想に基づいた整備を推進する必要があるだろう。

他方、満足度が「普通」に近いのは「憩いの場としての農地の保全」(2.55)、「緑地空間としての農地保全」(2.74) といった項目であった(図 2.4.1)。

更に、満足度が相対的に高かったのは「富士山・江戸川などの遠景の眺め」(2.86)に加え、「花・花木の多さや美しさ」(2.75)、環境に負荷を与えず維持しながら社会を形成していく「環境共生」、及び「緑の多さ」(2.91)等の緑化に関する項目であった(図 2.4.1)。

以上、春日部市の自然景観に関する満足度はやや高いが、水辺空間に関する満足度は低かった。

3 春日部市民の自然及び都市景観に関する分析

3.1 春日部市の景観イメージ、景観への期待、住みたい理由に関する推計結果

本節では、二項ロジット分析の結果を報告する。目的変数は、①自然にめぐまれたまち、②農のあるのどかなまち、③景観資源を保全する、④緑や花を増やす、⑤公園や緑地が少ない、⑥自然に恵まれていると回答したものを 1 とした(表 2.2.1 参照)。説明変数として、男性、職業、年齢、地区、世帯類型、及び家族人数を用いた(表 2.1.1 参照)。

表 3.1.1 個人属性別春日部市の景観・住居イメージ、景観への期待、住みたい理由に関する推計結果

変数	景観のイメージ				景観に対する期待		住環境に当てはまる		住み続けたい理由	
	自然にめぐまれたまち		農のあるのどかなまち		緑や花を増やす		公園や緑地が少ない		自然にめぐまれている	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
粕壁+武里	-0.548	0.17 ***	-0.846	0.17 ***	0.370	0.17 **	0.532	0.23 **	-0.865	0.29 ***
40歳代					0.387	0.21 *				
70歳代以上			-0.771	0.25 ***						
夫婦のみ			0.512	0.24 **						
二世帯			0.475	0.21 **						
定数項	-0.201	0.11 *	-0.070	0.19	-0.882	0.13 ***	-2.035	0.17 ***	-1.836	0.16 ***
尤度比	10.91	***	42.66	***	8.50	**	5.47	**	9.77	***
AIC	823.58		822.60		802.06		519.85		402.14	
疑似R ²	0.013		0.050		0.011		0.010		0.024	

註：1) ***, **, * は 1%, 5%, 10% の水準で統計的に有意であることを示す。

註：2) 『景観資源を保全する』についても推計したが、尤度比検定 (LR-test) の結果から省略した。

表 3.1.1 は、推計結果を示した。疑似 R² は 0.011 ~ 0.050 の範囲にあり、あまり良好とはいえないが、全ての回帰係数がゼロであることを帰無仮説とする尤度比検定は全てのモデルで棄却された。

まず、春日部市の景観イメージとして「自然に恵まれたまち」と回答した市民は粕壁・武里等の市街地や住宅地の住民は -0.548 と負の値を示している。つまり、粕壁や武里地区の市街地の住民は春日部市が自然に恵まれた街ではないと考えている。同様に、住み続けたい理由として「自然に恵まれている」と回答した市民も、粕壁・武里の住民は -0.865 と負の値を示しており、自然には恵まれていないと感じている。

また、「公園や緑地が少ない」と回答した市民も粕壁・武里 (0.532) の住民が特に少ないと感じていた。

加えて、「緑や花を増やす」ことを期待するのは、粕壁・武里 (0.370) や 40 歳代 (0.387) の市民であった。

最後に、「農のあるのどかなまち」とは粕壁・武里 (-0.846) の住民は感じていない。郊外に多い二世帯 (0.475) や夫婦のみ (0.512) 世帯は長閑であると感じているが、70 歳代 (-0.771) の市民は感じていない。

総合すると、市民のうちで、自然や農村、都市景観にマイナスイメージを持っているのは市街地の粕壁地区や住宅地である武里地区の住民であった。

3.2 個人属性別自然・都市景観の満足度の推計結果

本節では、順序プロビットモデルを用いた分析結果を報告する。目的変数は、表 2.4.1 に示した自然・都市景観の満足度を用い、説明変数は前節と同様である。

表 3.2.1 は、個人属性別にみた自然及び都市景観の満足度の推計結果であり、個人属性の限界効果が「やや不満」「不満」の区分で有意であったもののみ掲載した。

まず、『住宅地における生垣づくりの推進』に関する推計結果である。40 歳代の市民の

表 3.2.1 個人属性別自然及び都市景観の満足度の推計結果 (順序プロビット分析推計結果)

住宅地における生垣づくりの推進			満足		やや満足		普通		やや不満		不満	
変数	係数	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差
40歳代	-0.552	0.21 **	0.009	0.00 *	0.020	0.01 **	0.102	0.04 ***	-0.090	0.04 **	-0.041	0.01 ***
70歳代	0.490	0.22 **	-0.006	0.00 **	-0.013	0.01 **	-0.103	0.05 **	0.074	0.03 **	0.048	0.02 *
cut1	-4.291	cut2 -3.046	cut3 0.227	cut4 2.246	尤度比 14.7	Prob>chi2 0.001	疑似R ² 0.011					
河川や水辺の景観			満足		やや満足		普通		やや不満		不満	
変数	係数	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差
60歳代	-0.278	0.16 *	0.004	0.00	0.029	0.02 *	0.035	0.02 *	-0.036	0.02 *	-0.033	0.02 *
粕壁+武里	0.321	0.15 **	-0.004	0.00 *	-0.033	0.02 **	-0.042	0.02 **	0.040	0.02 **	0.040	0.02 **
cut1	-4.178	cut2 -1.794	cut3 0.189	cut4 1.857	尤度比 8.31	Prob>chi2 0.016	疑似R ² 0.005					
緑地空間としての農地保全			満足		やや満足		普通		やや不満		不満	
変数	係数	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差
40歳代	-0.543	0.22 **	0.009	0.01 *	0.049	0.02 **	0.051	0.02 ***	-0.084	0.03 ***	-0.025	0.01 ***
60歳代	-0.373	0.18 **	0.005	0.00 *	0.031	0.02 *	0.042	0.02 **	-0.060	0.03 **	-0.019	0.01 **
夫婦のみ	0.334	0.18 *	-0.004	0.00 *	-0.025	0.01 *	-0.045	0.03 *	0.055	0.03 *	0.019	0.01 *
cut1	-4.387	cut2 -2.291	cut3 0.649	cut4 2.697	尤度比 12.1	Prob>chi2 0.007	疑似R ² 0.009					
みどりと共に住み続けた住宅地整備			満足		やや満足		普通		やや不満		不満	
変数	係数	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差
70歳代	0.452	0.21 **	-0.004	0.00 *	-0.030	0.01 **	-0.077	0.04 **	0.070	0.03 **	0.040	0.02 *
農林漁業	1.215	0.73 *	-0.007	0.00 *	-0.057	0.02 ***	-0.230	0.14 *	0.144	0.03 ***	0.150	0.13
cut1	-4.564	cut2 -2.206	cut3 0.549	cut4 2.479	尤度比 7.8	Prob>chi2 0.001	疑似R ² 0.005					
工場における敷地内の緑化の推進			満足		やや満足		普通		やや不満		不満	
変数	係数	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差
60歳代	0.336	0.18 *	-0.003	0.00	-0.013	0.01 *	-0.064	0.03 *	0.054	0.03 *	0.025	0.01 *
70歳代	0.806	0.23 ***	-0.006	0.00 **	-0.025	0.01 ***	-0.165	0.05 ***	0.122	0.03 ***	0.074	0.03 ***
cut1	-4.433	cut2 -2.681	cut3 0.752	cut4 2.705	尤度比 7.8	Prob>chi2 0.001	疑似R ² 0.005					
花・花木の多さや美しさ			満足		やや満足		普通		やや不満		不満	
変数	係数	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差
専業主婦	0.573	0.29 **	-0.010	0.00 **	-0.060	0.03 **	-0.069	0.04	0.087	0.04 **	0.052	0.03 *
二世帯世帯	-0.346	0.15 **	0.007	0.00 **	0.043	0.02 **	0.030	0.01 **	-0.055	0.02 **	-0.025	0.01 **
粕壁+武里	0.246	0.15 **	-0.005	0.00	-0.030	0.02	-0.022	0.01	0.039	0.02	0.018	0.01
cut1	-3.808	cut2 -1.563	cut3 0.531	cut4 2.437	尤度比 12.6	Prob>chi2 0.006	疑似R ² 0.008					
富士山・江戸川などの遠景の眺め			満足		やや満足		普通		やや不満		不満	
変数	係数	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差
70歳代	0.495	0.21 **	-0.015	0.01 **	-0.056	0.02 **	-0.038	0.02 **	0.063	0.03 **	0.045	0.02 **
二世帯世帯	-0.320	0.15 **	0.011	0.01 *	0.040	0.02 **	0.014	0.01 *	-0.041	0.02 **	-0.025	0.01 **
粕壁+武里	0.576	0.15 ***	-0.020	0.01 ***	-0.071	0.02 ***	-0.027	0.01 **	0.073	0.02 ***	0.046	0.01 ***
cut1	-3.079	cut2 -1.188	cut3 1.095	cut4 2.557	尤度比 26.9	Prob>chi2 0.000	疑似R ² 0.016					
季節の景観			満足		やや満足		普通		やや不満		不満	
変数	係数	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差
自営業	-0.790	0.30 ***	0.030	0.02 *	0.102	0.05 **	-0.009	0.02	-0.092	0.03 ***	-0.031	0.01 ***
常勤	-0.513	0.31 *	0.017	0.01	0.063	0.04	0.005	0.01	-0.063	0.03 *	-0.022	0.01 *
非常勤	-0.295	0.17 *	0.008	0.01	0.032	0.02 *	0.015	0.01	-0.040	0.02 *	-0.015	0.01 *
粕壁+武里	0.411	0.16 ***	-0.011	0.00 **	-0.044	0.02 **	-0.021	0.01 **	0.055	0.02 **	0.021	0.01 **
cut1	-3.607	cut2 -1.698	cut3 1.064	cut4 2.809	尤度比 16.0	Prob>chi2 0.003	疑似R ² 0.011					
環境共生			満足		やや満足		普通		やや不満		不満	
変数	係数	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差
50歳代	-0.355	0.20 *	0.019	0.01	0.044	0.03 *	0.008	0.01	-0.049	0.03 *	-0.021	0.01 *
専業主婦	0.471	0.27 *	-0.019	0.01 **	-0.050	0.03 *	-0.036	0.03	0.069	0.04 *	0.037	0.02
粕壁+武里	0.344	0.15 **	-0.016	0.01 **	-0.041	0.02 **	-0.015	0.01 *	0.007	0.02 **	0.023	0.01 *
cut1	-2.809	cut2 -1.189	cut3 1.006	cut4 2.723	尤度比 12.5	Prob>chi2 0.006	疑似R ² 0.008					
緑の多さ			満足		やや満足		普通		やや不満		不満	
変数	係数	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差	dy/dx	標準誤差
専業主婦	0.552	0.28 **	-0.017	0.01 **	-0.069	0.03 **	-0.036	0.03	0.073	0.04 **	0.050	0.03 *
粕壁+武里	0.451	0.15 ***	-0.017	0.01 ***	-0.063	0.02 ***	-0.012	0.01	0.058	0.02 ***	0.034	0.01 ***
自営業	-0.506	0.26 *	0.024	0.02	0.077	0.04 *	-0.007	0.02	-0.062	0.03 **	-0.031	0.01 **
cut1	-2.961	cut2 -0.969	cut3 1.135	cut4 2.654	尤度比 17.7	Prob>chi2 0.001	疑似R ² 0.011					

註：***, **, * は 1%, 5%, 10% の水準で統計的に有意であることを示す。cut1 は「やや満足」～cut4 は「不満」を示す。

限界効果をみると、普通 (0.102) と答える市民が多い。また『河川や水辺の景観』については、60歳代の市民は普通 (0.035) や、やや満足 (0.029) している。『緑地空間としての農地保全』については、夫婦のみの世帯はやや不満 (0.055)、不満 (0.019) を感じているものの、40歳代、60歳代の市民とも普通 (40歳代 0.051、60歳代 0.042)、やや満足 (0.049、0.031)、満足 (0.009、0.005) している。他方、『環境共生』についても、

50歳代の住民がやや満足(0.044)している。40～60代の市民は、住宅地周辺の緑地環境については、比較的満足度が高い。

次に、二世帯世帯の満足度が比較的に高いのは『花・花木の多さや美しさ』や『富士山・江戸川などの遠景の眺め』であった。表3.2.1には示していないが、『憩いの場としての農地の保全』や『公共施設における緑化や広場整備』、及び『水辺のネットワークの整備』等の項目でも二世帯世帯の満足度が高かった。

他方、『住宅地における生垣づくりの推進』や『みどりと共存した住宅地整備』、及び『富士山・江戸川などの遠景の眺め』について、70歳代の市民は、やや不満(生垣づくりの推進0.074, 住宅地整備0.070, 遠景の眺め0.073)や不満(0.048, 0.040, 0.045)を感じている。また、『みどりと共存した住宅地整備』については、農林漁業従事者はやや不満(0.144), 不満(0.150)と感じている。『工場における敷地内の緑化の推進』については、60歳代の市民より70歳代の市民の方が、やや不満(0.122)や不満(0.074)を感じている。以上、住宅地や工業用地の緑化整備に関しては70代の市民や農業従事者が不満を抱えていた。

更に『河川や水辺の景観』や『富士山・江戸川等の遠景の眺め』については、粕壁や武里の住民がやや不満(水辺の景観0.040, 遠景の眺め0.063), 不満(0.040, 0.045)と感じている。『季節の景観』や『緑の多さ』については、自営業がやや満足(季節の景観0.102, 緑の多さ0.077)しているが、粕壁・武里の住民がやや不満(0.055, 0.058), 不満(0.021, 0.034)を感じている。以上、市街地や住宅地の住民は、緑や水辺空間、眺望、季節感に不満を抱えていた。

最後に、『花・花木の多さや美しさ』『緑の多さ』については専業主婦がやや不満(美しさ0.087, 緑の多さ0.073), 不満(0.052, 0.050)を感じていた。また、『環境共生』についても、専業主婦はやや不満(0.069)と感じていた。

4 結論

本稿では、業務核都市春日部市の自然及び都市景観に関する市民評価を考察してきた。その結果、市民は春日部市を農がある自然に恵まれたまちという景観イメージを持ちながら、すまい・住環境には公園や緑地が少なく、自然に恵まれていないという印象を持っていた。春日部市の自然及び都市景観については、緑に関する満足度は比較的に高いが、水辺空間に関する満足度は低かった。二項ロジットモデルの推計結果は、市街地(粕壁)や住宅地(武里)の住民の多くが、自然や農村、都市景観にマイナスイメージを持っていることを示した。更に、順序ロジットモデルの推計結果は、自然及び都市景観については、40～60歳代や二世帯世帯の市民の満足度はやや高いものの、粕壁や武里地区の住民や、

日常的にも市内に居住しがちな専業主婦は不満を抱えていることを明らかにした。業務核都市には、都市開発が進む中で、農村と都市が併存している都市が多い。都市開発が進む中で、田畑が切り開かれて都市化していったのだが、都市となった市街地には自然や緑が失われている。そのため、昔の街並みを知る70歳代の市民や農業従事者は住宅地や工業用地の緑化に不満を持っていると思われる。

春日部市は1人当たりの税収が県内で最も低く、県の将来人口推計をみると、2035年には現在の人口の78%に減少する。特に生産年齢人口の減少が大きいと予想され、高齢化が進む中で自然や緑地の重要性が増すだろう。春日部市には市役所を市立病院跡地に移転した後、市役所跡地に中央町第1公園を移転する議案がある。春日部市は市民ニーズに沿った公園緑地の基本構想を策定し、整備を進めていくことが求められる。

引用文献

- 春日部市(2011)「景観特性と課題」『春日部市景観計画』春日部市景観計画審議会, 2-32.
- 中村哲也(2006)「春日部市における農業の現状と課題」間仁田幸雄編著『春日部市における産業の現状と課題』埼玉県地域協力研究センター, 92-108.
- 藤本高志(1998)「景観形成作物の居住者による経済評価」『農がはぐくむ環境の経済評価』農林統計協会, 91-109.
- 吉田謙太郎・千々松宏・出村克彦(1996)「丘陵畑作農業の作り出す農村景観の経済的評価—二肢選択CVMの適用—」農業経営研究, 34(1), 33-41.
- 吉田謙太郎・木下順子・江川章(1997)「二段階二項選択CVMによる農村景観の経済的評価—大阪府能勢町を事例として—」農村計画学会誌, 16(3), 205-215.

注

- 1) 業務核都市は「業務機能等の適正な配置先として育成整備を図る拠点的な都市」として「第4次首都圏基本計画(昭和61年6月決定)」「多極分散型国土形成促進法」において業務核都市制度が定められ、これらに基づく支援措置等により、業務核都市の育成・整備が進められた。詳細については、国土交通省業務核都市HPを参照。
- 2) 基本構想については埼玉県業務核都市を参照。
- 3) 埼玉県の人口は1970年が386.6万人、2010年が719.5万人であり、40年間で1.86倍に増加している。この数字は、千葉県の1.85倍、神奈川県1.65倍、沖縄県の1.45倍、茨城県の1.39倍より大きい(国勢調査2010年)。
- 4) 昼夜間人口比率は88.6%と日本一低く、関東で最も多い94万人が東京都特別区へ流入する(同国勢調査)。
- 5) 5都市のうち市町村合併していない都市は青梅市のみであり、他の4都市は市町村合併しながら人口が減少に転じている(国土地理院市町村合併新旧一覧図)。